

久留米市セーフコミュニティ現地審査 スケジュール

	平成30年7月30日（月）	平成30年7月31日（火）
9:00		
		活動視察 9:30~10:50 ⑦防犯対策委員会 【コミュニティワ-上津校区会館】
10:00	10:00~11:00 ①市の概要説明 SCの取組み 【久留米市庁舎401会議室】	
11:00	11:20~12:20 ②交通安全対策委員会 【久留米市庁舎401会議室】	11:20~12:20 ⑧DV防止対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
12:00		
	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00		
	13:30~14:30 ③高齢者の安全対策委員会 【久留米市本庁舎401会議室】	13:30~14:30 ⑨学校安全対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
14:00		
15:00	活動視察 15:00~16:30 ④防災対策委員会 【久留米広域消防本部 消防防災センター】	14:50~15:50 ⑩児童虐待防止対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
16:00		審査員ミーティング
		16:30~17:30 審査員講評 (久留米市SC推進協議会) 【久留米シティプラザ大会議室】
17:00	17:00~18:00 ⑤自殺予防対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】	
18:00		
	18:20~19:20 ⑥外傷等動向調査委員会 【久留米シティプラザ中会議室】	
19:00		
20:00		

久留米市セーフコミュニティ 自殺予防対策委員会

発表日 2018年 7月30日
発表者 自殺予防対策委員会委員長
所属 久留米大学 内村 直尚

1.自殺予防対策委員会の構成メンバー

区分		所属
専門組織	1	久留米大学
	2	(一社)久留米医師会
住民組織等	3	久留米市民生委員児童委員協議会
	4	久留米市校区まちづくり連絡協議会
	5	グリーンコープ生活協同組合ふくおか
関係機関	6	久留米市広域消防本部
	7	久留米警察署(総務第二課)
行政機関	8	久留米市協働推進部消費生活センター
	9	久留米市健康福祉部生活支援第2課
	10	久留米市商工観光労働部労政課
	11	久留米市教育部学校教育課
	12	久留米市健康福祉部保健所保健予防課

2016年度(平成28年度)にNo7委員を追加

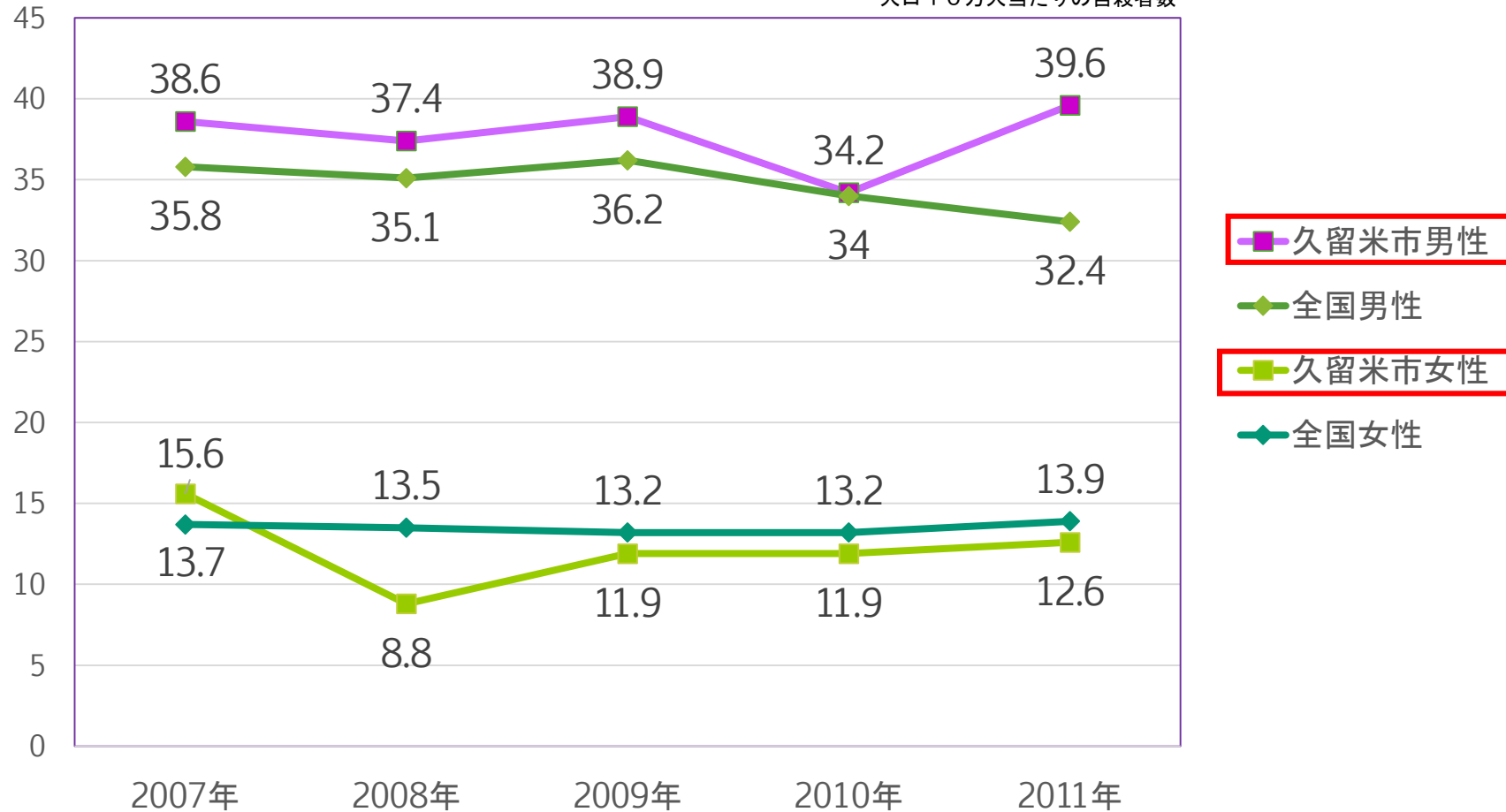
2.自殺予防対策委員会の開催実績(認証後)

回数	開催日	主な協議事項
第11回	2014.10.17	認証取得後の取り組み、具体的取り組みの進捗と今後の取り組み方針について
第12回	2015.4.20	2014年度取り組みの実績について、指標の見直しについて
第13回	2015.9.14	対策委員会としての課題と取り組みについて
第14回	2016.4.26	これまでの取り組みに関する効果確認・改善について
第15回	2016.11.15	再認証取得に向けた具体的施策の検証について
第16回	2017.4.25	2016年度取り組みの実績について、2017年度取り組みについて
第17回	2017.7.3	セーフコミュニティ事前指導について、今後の取り組みについて
第18回	2017.10.24	再認証事前指導
第19回	2018.1.31	再認証事前指導の講評への対応、セーフコミュニティ実態調査の活用について
第20回	2018.4.10	2017年度取組実績及び2018年度取組方針について、本審査について

3-1. 自殺予防対策委員会の必要性(設置の背景)

【図表1】全国・久留米市の自殺死亡率の推移 出典：人口動態統計

人口10万人当たりの自殺者数



男性の自殺死亡率は全国に比べると高く、女性は低い傾向にある

3-2. 自殺の状況(市内の自殺の状況)

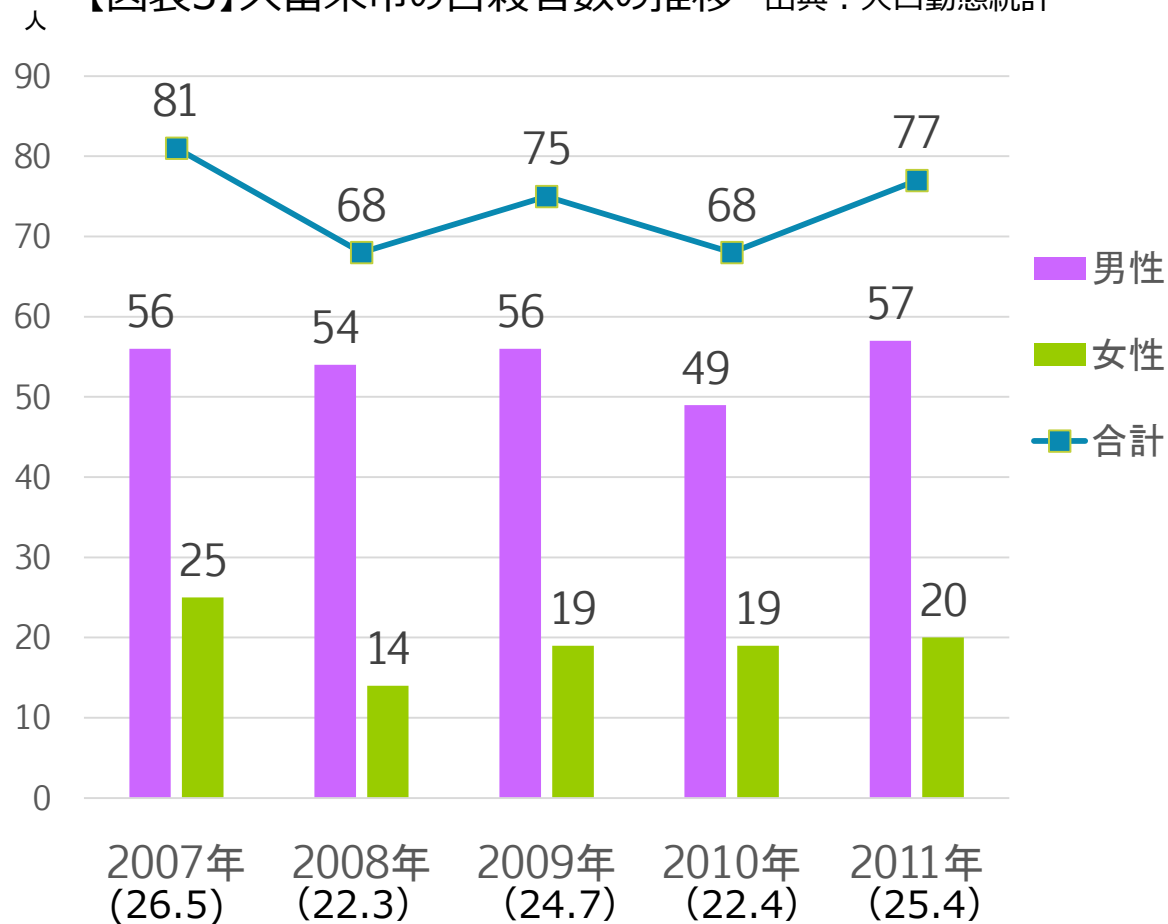
【図表2】年齢層別外的要因による死亡原因
出典：人口動態統計（2000～2012累計）

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故	その他不慮の事故		
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	煙・火	他殺
30～39歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	中毒	転倒・転落
40～49歳	自殺	交通事故	その他不慮の事故	他殺	溺死・溺水
50～59歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	窒息	転倒・転落
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	その他不慮の事故
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	その他不慮の事故	転倒・転落	自殺
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	その他不慮の事故	交通事故
合計	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

死亡原因（病気を除く）は、幅広い世代で「自殺」が最多

4-1.自殺の状況(市内の自殺の状況)

【図表3】久留米市の自殺者数の推移 出典：人口動態統計



() 内は自殺死亡率

【図表4】年代別性別自殺者数 出典：人口動態統計 (2007~2011累計)

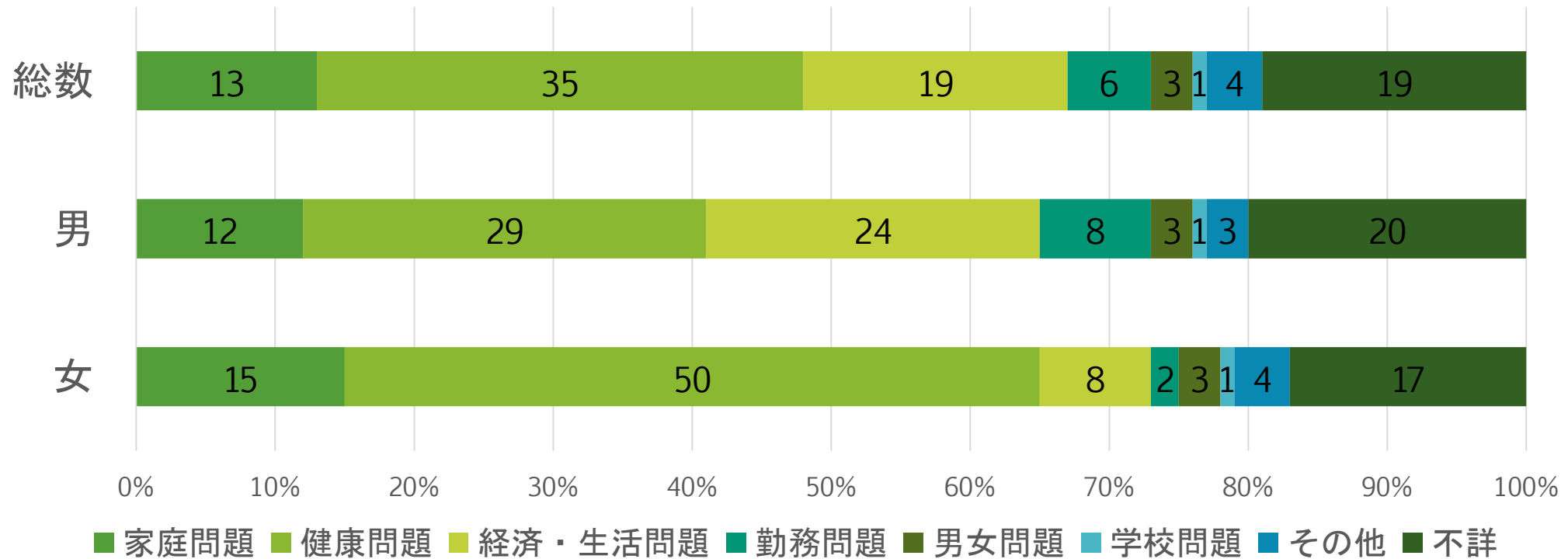


自殺者の約7割が男性。50代男性が最も多い。

4-2-1.自殺の状況(市内の自殺の状況)

【図表5】自殺の原因・動機別データ 出典：警察庁統計

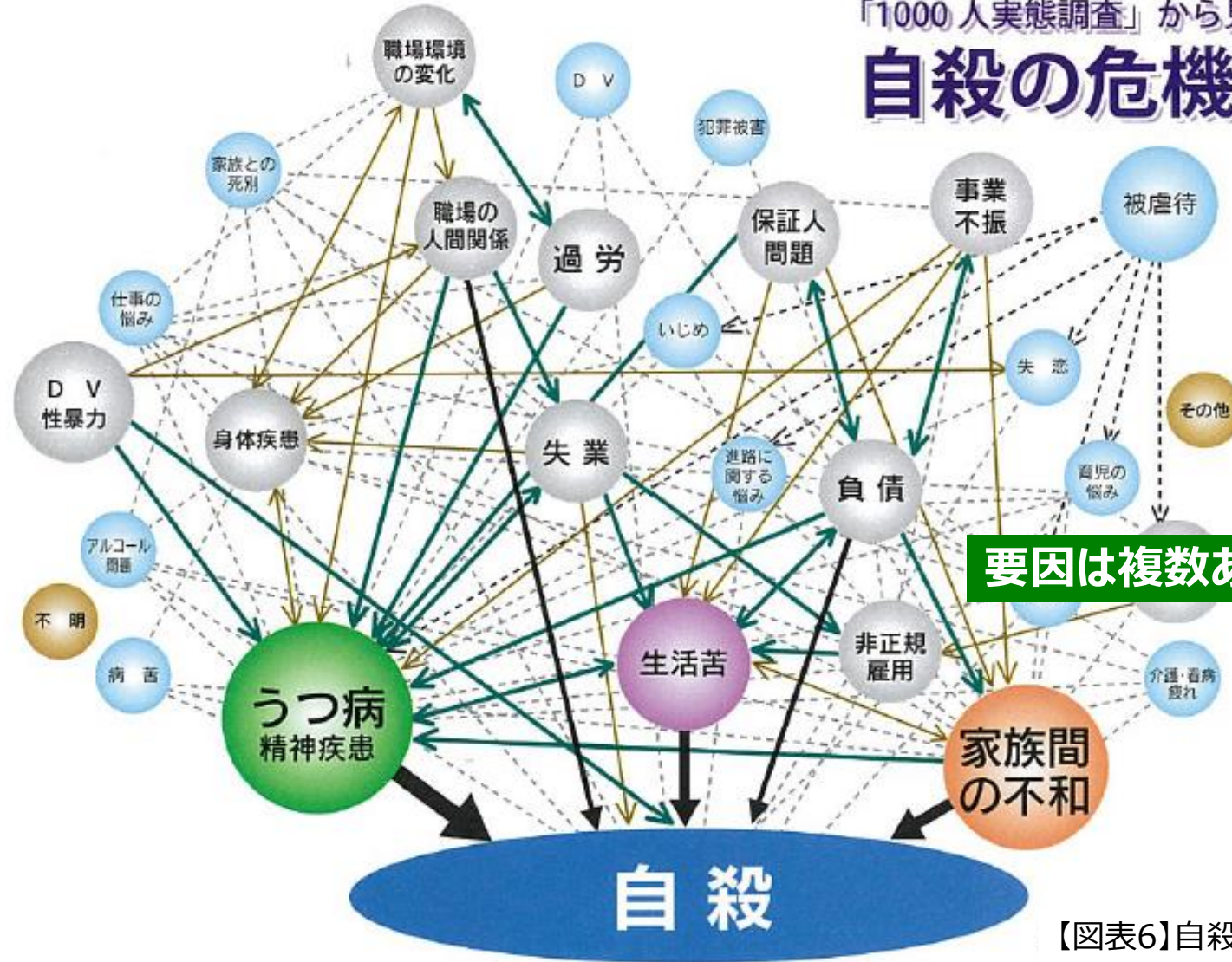
2009～2013年原因・動機別(2010年を除く)



自殺の原因は、【健康問題】が最も多い。

4-2-2.自殺の状況(市内の自殺の状況)

「1000人実態調査」から見えてきた
自殺の危機経路



要因は複数あり複雑に絡み合っている。

【図表6】自殺の危機経路 出典：NPOライフリンク

4-3.自殺の状況(久留米市「市民意識調査」)

【図表7】ふだん生活する中で不安に感じること
出典：2011年度市民意識調査

【男性】

【女性】

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
20代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	職場のケガ事故	自殺やうつ病の増加
30代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	自殺やうつ病の増加	学校や登下校
40代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	学校や登下校	性的犯罪
50代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	家庭・職場のケガ事故	
60代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	家庭のケガ事故	自殺やうつ病の増加
70代～	交通事故	家庭のケガ事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	余暇や運動中

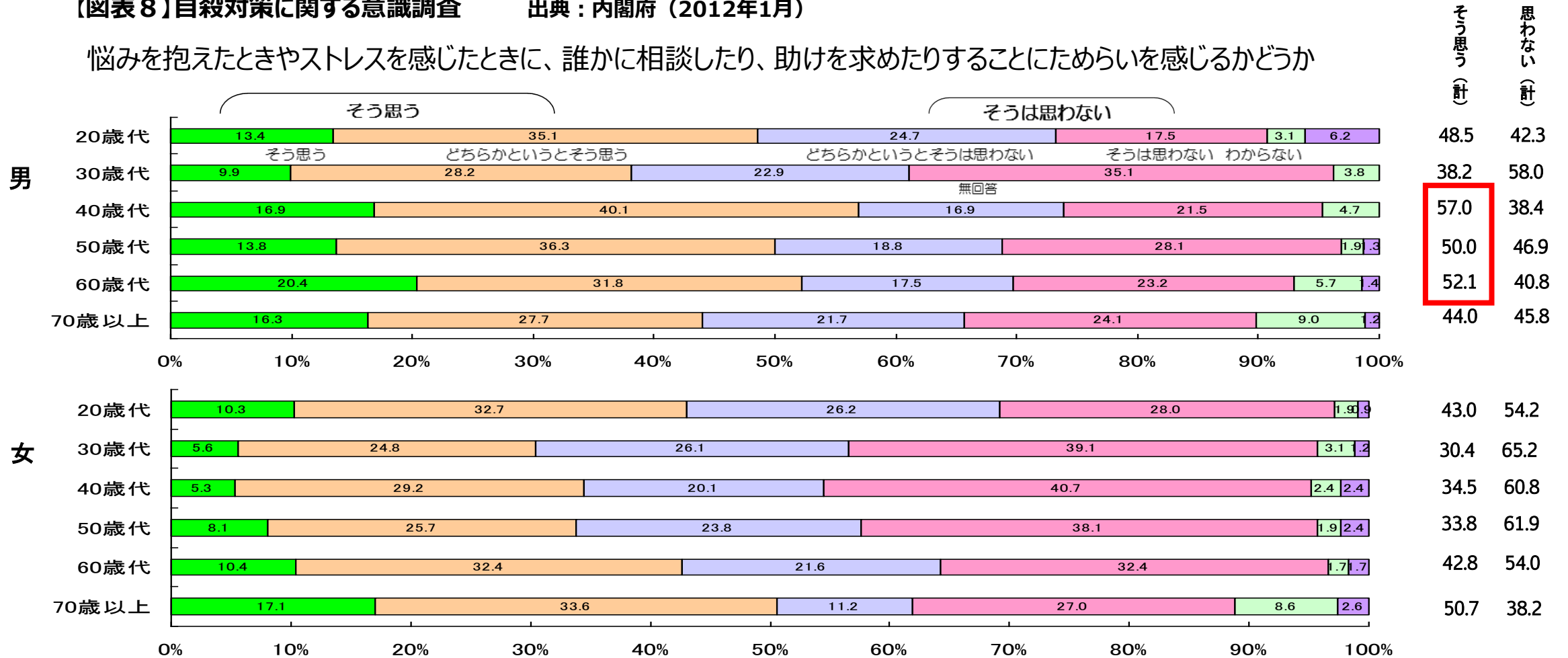
年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
20代	交通事故	窃盗犯罪	性的犯罪	凶悪犯罪	自殺やうつ病の増加
30代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	性的犯罪	学校や登下校
40代	交通事故	窃盗犯罪	学校や登下校	性的犯罪	凶悪犯罪
50代	交通事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	性的犯罪	家庭のケガ事故
60代	交通事故	窃盗犯罪	家庭のケガ事故	凶悪犯罪	自殺やうつ病の増加
70代～	交通事故	家庭のケガ事故	窃盗犯罪	凶悪犯罪	自殺やうつ病の増加

40代、50代は自殺が多い年代だが、「自殺やうつ病の増加」の不安は低い

4-4. 自殺の状況(内閣府「自殺対策に関する意識調査」)

【図表8】自殺対策に関する意識調査 出典：内閣府（2012年1月）

悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるかどうか



中高年の男性は、悩みを一人で抱え込む傾向にある。

4-5.自殺の状況(内閣府「自殺対策に関する意識調査」)

Q.身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき
精神科の病院へ相談することを勧めるか？

YES
72.7%

Q.自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき
自ら精神科の病院へ相談に行こうと思うか？

YES
51.2%

Q.自殺を考えたとき、どのように乗り越えたか？

第1位 家族や友人、職場の同僚など身近な人に話を聞いてもらった

※自分のことになると躊躇する

出典：内閣府「自殺対策に関する意識調査」2012年1月

4-6. 自殺の状況(市内の自殺の現状)

電気コード・ネクタイ・ロープ等、身近で手軽な道具が特徴

【図表9】救急搬送における自殺未遂者・既遂者の精神科既往歴

出典：救急搬送データ

	未遂者			既遂者（不搬送含む）		
	総数	精神科医 既往歴有		総数	精神科医 既往歴有	
2009年	112	72	64.3%	43	12	27.9%
2010年	113	67	59.3%	36	8	22.2%
2011年	135	74	54.8%	47	9	19.1%
合計	360	210	59.2%	126	29	23.0%

自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い

	出動件数	死亡件数			
		割合	男	女	
首吊り	116	91	78%	65	26
焼身	2	1	50%	0	1
飛び降り	20	10	50%	2	8
入水	2	1	50%	1	0
銃火器・刃物・鋭利物	89	2	2%	1	1
交通機関	3	2	67%	1	1
薬物全般	213	1	0.5%	0	1
ガス類	27	13	48%	11	2
その他の自損行為	12	4	33%	3	1
不明	2	1	50%	0	1
合計	486	126	26%	84	42

(A) (B) (B/A)

自損行為に至る前の予防が大事

5. 課題の整理(データから見る)

客観的データ

- 働き盛りの年代の男性に自殺者が多い (図表4)
- 病気を除く死亡原因では、幅広い世代で、自殺が最多 (図表2)
- 自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い (図表9)
- 自殺の要因は複数あり複雑に絡み合っている (図表5・6)

主観的データ

- 「うつや自殺」に対する不安を感じる人が少ない (図表7)
- 中高年男性は悩みを1人で抱え込む傾向がある (図表8)



重点課題の決定

6. 優先的に取り組む重点課題

客観的データ

① 自殺者数は数年横ばいで推移し、男性が7割 (図表2・4)

③ 自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡んでいる (図表5・6)

⑤ 自損行為に至る前の予防が大事 (図表9)

主観的データ

② 30～50代の自殺が多いが不安意識は低い (図表7)

④ 働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る (図表8)

自殺・うつ病の予防

7.課題解決のための方向性と対応(具体的施策)

<図表10>

課 題	方向性	施策No	見直し	具体的施策
①自殺者数は横ばい、男性7割 ②30～50代の自殺が多いが不安の意識は低い	a	1		かかりつけ医と精神科医の連携 (旧：かかりつけ医うつ病アプローチ研修)
	b	2		ゲートキーパーの研修
③自殺に至る要因は複数で、絡み合っている	c	3		自殺対策連絡協議会等と連携した普及啓発 (旧：自殺対策連絡協議会)
	d	5		ベッドサイド法律相談 (1 かかりつけ医者と精神科医の連携に統合)
④30～50代の男性が誰にも相談できずに自殺に至る	b	2		ゲートキーパーの研修
	e	4		民間団体と協働した相談 (旧：ワンストップサービス相談)
	f	6	*	生活困窮者の相談 (2017年度から)
⑤自損行為に至る前の予防が大切	b	2		ゲートキーパーの研修

方向性：a.適切な医療を受けられる体制づくり b.市民一人ひとりの気づきと見守りを促す取組み c.社会的な取組で自殺を防ぐ
d.自殺未遂者の再企図防止 e.民間団体との連携を強化する取組み f.生活困窮を理由とするハイリスク者への支援

8.レベル別の対策(具体的施策)

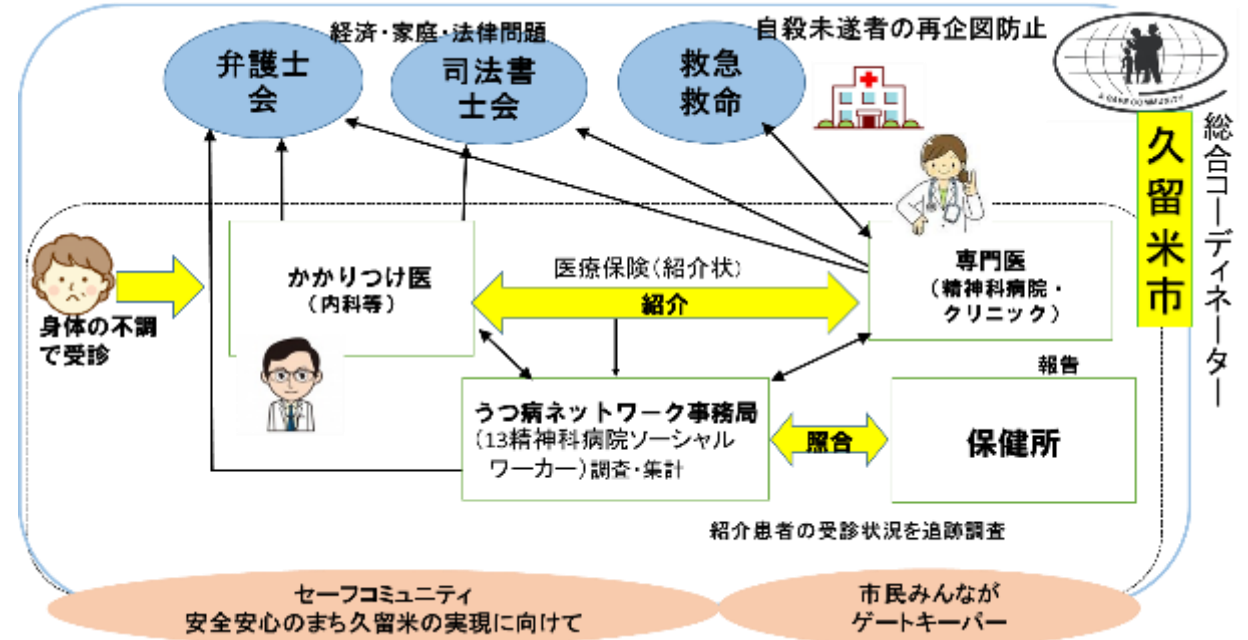
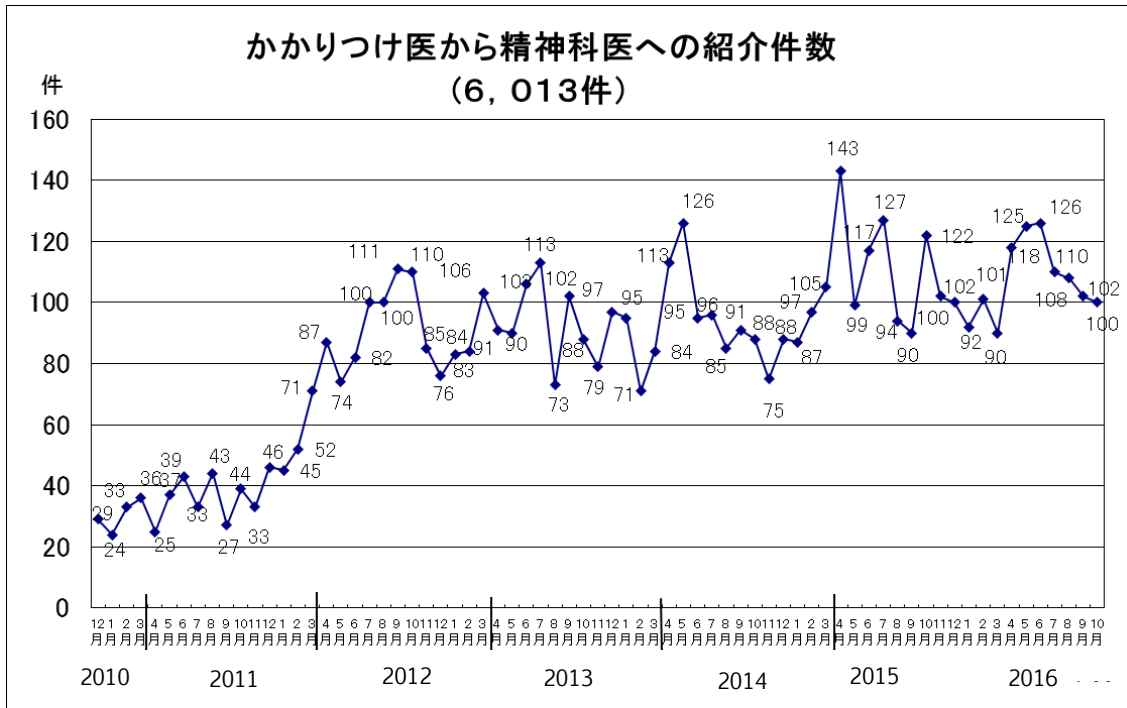
<図表11>

課題	対策		
	国県レベル	市レベル	地域レベル
・自殺者は横ばい、男性7割	自殺対策の基盤整備や支援 地域レベルの実践的な取組への支援を強化	地域の連携強化	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 対策委員会 ①かかりつけ医と精神科医の連携 </div>
・30～50代の自殺が多いが不安の意識は低い ・自殺に至る要因は複数で、絡み合っている	自殺対策の基盤整備や支援 地域レベルの実践的な取組への支援を強化	普及啓発キャンペーン 相談窓口の充実	出前講座の参加・ゲートキーパー活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 対策委員会 ②ゲートキーパーの研修 ③自殺対策連絡協議会等と連携した普及啓発 【パンフレット配布・ポスター設置】 </div>
・自損行為に至る前の予防が大切	自殺対策の基盤整備や支援 地域レベルの実践的な取組への支援を強化	普及啓発キャンペーン 地域の連携強化	
・30～50代の男性が誰にも相談できずに自殺する	自殺対策の基盤整備や支援 地域レベルの実践的な取組への支援を強化	普及啓発キャンペーン 相談窓口の充実	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 対策委員会 ④民間団体と協働した相談 ⑤生活困窮者の相談 </div>

9-1-1. 具体的施策の取り組みと成果

かかりつけ医と精神科医の連携<施策番号 1 >

自殺対策「久留米方式」の概要



- ・2014年 かかりつけ医の紹介患者の追跡調査を開始
- ・2015年 筑後地区一円の医師会への周知

- ・2012年 司法書士会が、自殺未遂者の法的支援を目的に「ベッドサイド法律相談」を開始
- ・2013年 弁護士会が、自殺の危険の高い方の支援者に対する無料法律相談を開始
- ・医療、司法、行政、市民が一体となったネットワークへと拡大

市内4医師会に加え、筑後地区一円の医師会での共催で研修会を実施し、連携の拡大を図った

9-1-2. 具体的施策の取り組みと成果

かかりつけ医と精神科医の連携 < 施策番号 1 >

< 図表 12 >

指標		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数	2回 216人	2回 191人	2回 264人	2回 307人	2回 260人
短期	参加者の意識変化〔アンケート〕 「研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まった」と答えた人の割合	-	-	-	-	93.3 98
中期	①うつ病を疑い精神科医に紹介した件数	1089	1146	1279	1257	集計中
中期	②うつ病と診断された人の人数と割合	486人 44.6%	456人 39.8%	473人 37.0%	475人 37.8%	集計中
長期	①人口10万対自殺者数〔人口動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	集計中
長期	②自損行為による救急出動数と死亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

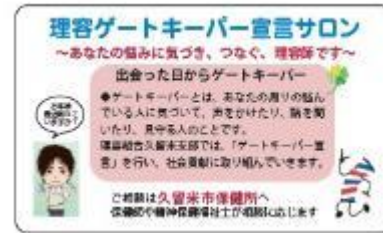
9-2-1. 具体的施策の取り組みと成果

ゲートキーパーの研修 < 施策番号 2 >

身近な人の「うつ」等のサインに気づき、適切な対応を図ることができるゲートキーパーの役割を担う人材を育成する。



- ・2014年 民生委員や理容師の方への研修
 - ・2015年 タクシー組合や料飲業組合等への研修
消費生活センターと出前講座をタイアップ
 - ・2016年 薬剤師会への研修
- ⇒ 2017年度中に、市内全校区（46）での啓発が目標



2016年 理容組合と協働で作成し、加盟店などに設置



委員も啓発冊子作成への提案や意見



市民ゲートキーパー絆の会と啓発キャンペーン等で連携

9-2-2. 具体的施策の取り組みと成果

ゲートキーパーの研修〈施策番号 2〉

〈図表13〉

指標	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	ゲートキーパー啓発回数及び人数	86回 3,746人	149回 5,290人	66回 3,527人	67回 2,294人	48回 2,365人
短期	参加者の意識変化〔アンケート〕 「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合	-	-	-	-	87.7%
中期	うつ・自殺に関する相談件数	198件	195件	211件	203件	集計中
長期	①人口10万対自殺者数 〔人口動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	集計中
長期	②自損行為による救急出動数と 死亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

9-3-1. 具体的施策の取り組みと成果

自殺対策連絡協議会等と連携した普及啓発〈施策番号3〉

自殺対策の推進を図るため、現状と各団体の取り組みについて情報を共有。
2017年度より、自殺対策に関する啓発活動に協働で取り組む。



- 2013年 大学病院、地域、弁護士会の取り組み報告
- 2014年 参加者意識の向上講演会
- 2015年 実践的な取り組み事例発表
- 2016年 参加者意識向上のための講話と実践報告



自殺対策強化月間のポスター掲示や
グッズの配布等の啓発活動

9-3-2. 具体的施策の取り組みと成果

自殺対策連絡協議会等と連携した普及啓発 < 施策番号 3 >

< 図表14 >

指標	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	啓発協力団体数、配布箇所、配布部数	-	-	-	-	集計中
短期	参加者の意識変化〔アンケート〕	-	-	-	-	集計中
中期	うつ・自殺に関わる相談件数 (うち関係機関からつながった件数)	198件 (44件)	195件 (50件)	211件 (56件)	203件 (49件)	集計中
長期	①人口10万対自殺者数 〔人口動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	集計中
長期	②自損行為による救急出動数と死亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

9-4-1. 具体的施策の取り組みと成果

民間団体と協働した相談 < 施策番号 4 >

◆ハローワーク相談会の開催



- 司法書士と保健師・精神保健福祉士によるハローワークで求職活動をしている方を対象にした相談会
- 2013年 ハローワークでの相談会（3回開催）
（司法書士会と協働）
- 2015年 年4回開催へ拡大
- 各相談会終了後は、情報共有を図り、継続支援

◆「こころの相談カフェ」新規開設



- 臨床心理士等の専門カウンセラーによる対面相談の実施
- 2016年8月 開設（週1回の開催）
民間の商業施設にて、平日の昼間に開催
- 2017年～ 拡充
市立中央図書館にて、平日夜間及び日曜日に開設（月1回）



9-4-2. 具体的施策の取り組みと成果

民間団体と協働した相談 < 施策番号 4 >

< 図表15 >

指標	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	ハローワーク相談会及びこころの相談 カフェ（2016年8月～）の 開催回数	2回 (15人)	4回 (22人)	4回 (24人)	4回(22人) 34回(125人)	4回(19人) 61回(217人)
短期	相談後のアンケートの実施	-	-	-	-	集計中
中期	うつ・自殺に関わる相談件数 (うち関係機関からつながった件数)	198件 (44件)	195件 (50件)	211件 (56件)	203件 (49件)	集計中
長期	①人口10万対自殺者数 〔人口動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	集計中
長期	②自損行為による救急出動数と 死亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

9-5-1. 具体的施策の取り組みと成果

生活困窮者の相談 < 施策番号 5 >

2017年度から新規



- ・自殺の原因は、「健康問題」に次いで、「経済・生活問題」が多く、経済的な問題を抱えている人が多い。(図表4)
- ・2015年に久留米市生活自立支援センターを開設し、生活困窮状態にある市民への相談支援を実施
- ・経済的な問題をはじめとした様々な相談を受け、相談にあわせた支援プランを作成。関係機関と連携しながら伴走型の支援を行う
- ・例年の相談件数増加を受けて、2017年度よりさらに相談支援員を増員。相談者本位の相談を心がけている。

9-5-2. 具体的施策の取り組みと成果

生活困窮者からの相談 < 施策番号 5 >

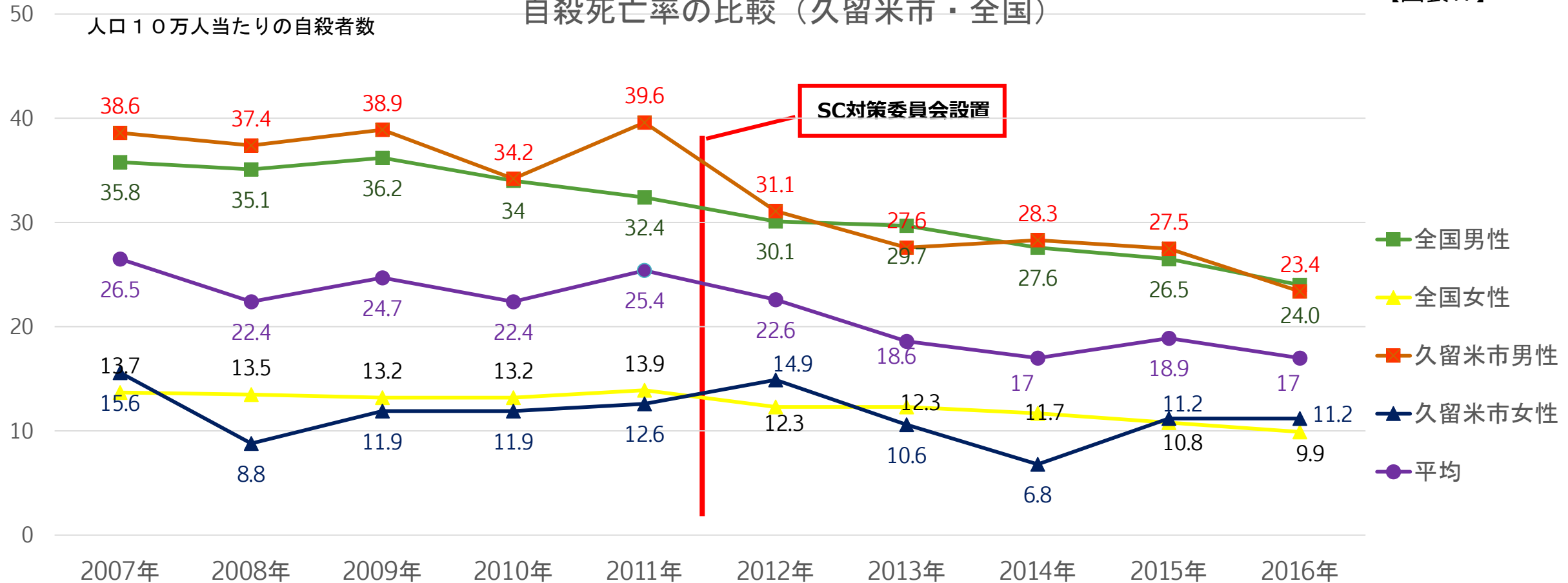
< 図表 16 >

指標	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	新規相談受付件数	-	-	668	845	887
短期	関係機関等から繋がった機関数	-	-	庁内23庁 外17	庁内27 庁外15	庁内27 庁外21
中期	自立相談支援事業における支援 計画策定数及び支援終結件数	-	-	177	475	513
				55	141	190
長期	①人口10万対自殺者数〔人口 動態統計〕	18.6	17.0	18.9	17.0	集計中
長期	②自損行為による救急出動数と死 亡数	158件 34件	102件 25件	125件 41件	116件 32件	107件 28件

10-1. 全体の成果

【図表17】

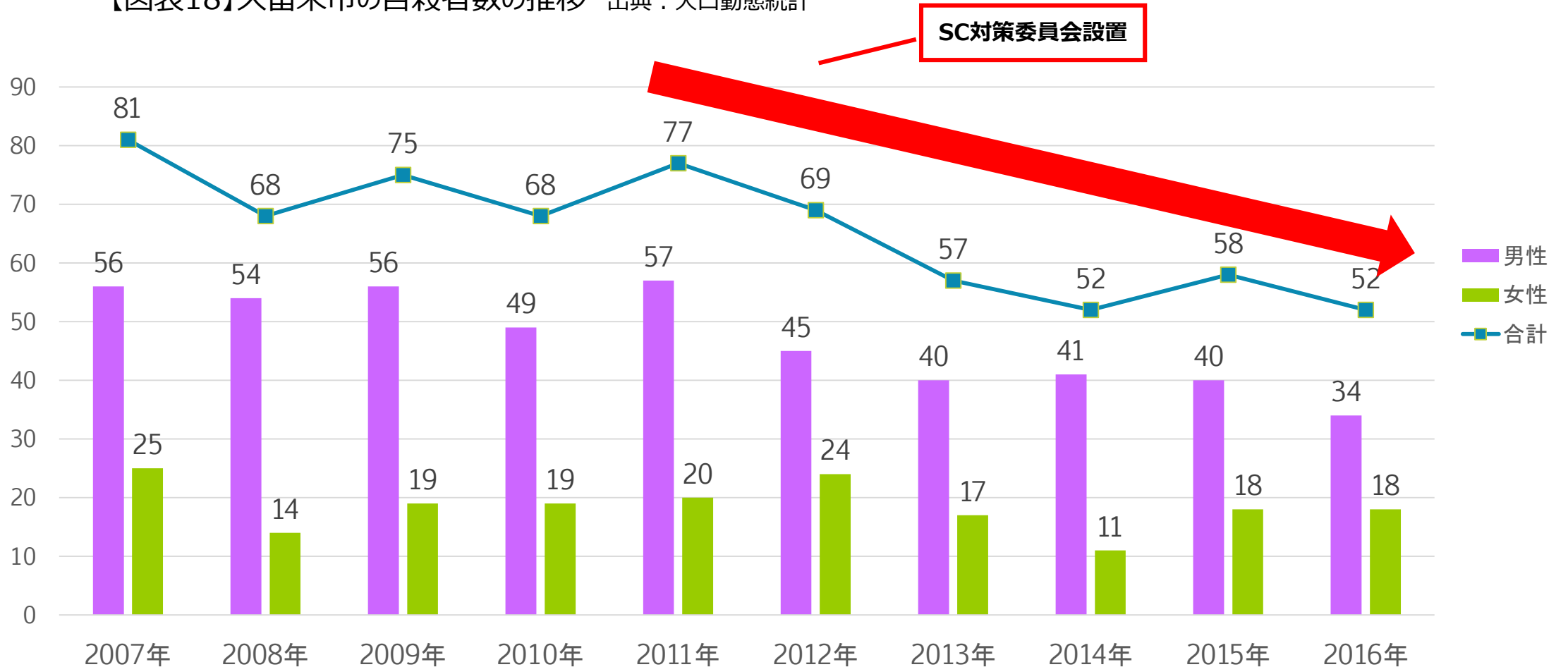
自殺死亡率の比較（久留米市・全国）



認証時の目標：自殺死亡率10%削減 2011年 25.4 ⇒ 2016年 17.0
33%削減で目標達成！！

10-2. 全体の成果

【図表18】久留米市の自殺者数の推移 出典：人口動態統計

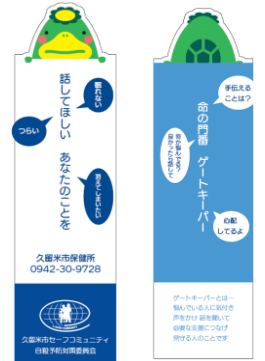


自殺者数は減少傾向で、対策委員会設置後は、50～60人台で推移

11. 2017年10月の事前指導での助言

1. 自殺が多い中高年男性へのアプローチ

一人でも気軽に行ける「書店」と連携した取り組みへ
対策委員で作成したしおりを配布



2. 「心の相談カフェ」開催場所の百貨店社員への研修

顧客との距離が近いという久留米店の特長を活かし、
ゲートキーパー研修の実施を検討中

12. 認証取得後の変化

① かかりつけ医と精神科医の連携システムを中心とした全市的なネットワークの強化と拡大



② 地域におけるゲートキーパーの拡大

③ 様々な相談窓口の開設等による相談体制の強化



13. 今後の目標・課題

① 中高年男性の自殺者減少への取組

- ・ 自殺者数は減少しているが、依然として働き盛りの年代の自殺者数が多い

② 正しい知識を持つ市民の増加

- ・ 「うつや自殺」に対する不安を感じる人が少なく、また、中高年男性は悩みを抱え込む傾向がある。

③ 適切な医療や支援を受けられる体制の整備

- ・ 自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い。

④ 地域の相談体制の更なる充実

- ・ 自殺の要因は複数あり複雑に絡み合っている。

<達成目標>

自殺死亡率

15.1 以下

2022年

ご清聴ありがとうございました。



自殺予防対策委員会